

2025-2027 年の衝撃戦略策定

どうして現在、「衝撃戦略」の話をしているのですか？

ここ数ヶ月、我々がよく話していることのひとつに、...2024 年、RMHC は 50 歳を迎えるということがあります！

そして、振り返るためのユニークな瞬間であると同時に...我々の衝撃の遺産を祝うため...および半世紀に渡り、ご家族にサービスを提供してきた...そして、「次の 50 年を迎えるにあたって、我々はどう進化していきたいのか」という未来への問いかけをし、千載一遇のチャンスであり、変節点でもあります。

--

我々は何を創造しているのですか？

そこで我々は、グローバルに連携すること、共同で作成すること、地域に関連すること、普遍的に採用される最初の戦略的フレームワークを作成することに取り組んでいます。それはムリヤリですが、この言葉のひとつひとつは本当に意味があるんです。

共創したこと：つまり、このフレームワークにシステム全体が指紋をつけることを望んでいるのです。

整合したこと：つまり、このフレームワークが、次の 50 年の幕開けに向けた方向性として、システム全体から支持されることを望んでいるのです。

現地で関連すること：グローバルなビジョンを持つことは一つですが、そのビジョンを世界中で実現するためには... というのも、我々がサービスを提供する人々の要望が異なるため、見た目が変わるだけなのです...我々が活動する地域社会は異なっています...そして、世界中のチャプターが、このフレームワークの中で自分自身を見ることができるようになりたいと考えています。

そして最後に、ユニバーサル採用：これが結果です。このフレームワークは共創されたもののため、目標は...世界中で足並みを揃えているからこそ...および、地元に着しているからこそ...我々は、すべての支部がこれを採用し、フレームワークを梯子する独自のローカルプランを開発するために活用することを望んでいます。

そういうことで... 我々は、次の 50 年を始めるにあたり、システムのビジョン、ミッション、バリュー、そして優先事項や主要な成果に関して、共通の視点を持つための非常に意図的なステップを踏んでいるのです。そして、一緒にやっていきましょう。

--

なぜそれが重要なのですか？

信じられないかもしれませんが、我々はこれまで本当にやったことがないんです。そう考えると、チャンスは本当に大きいです。

あのね、我々はチャプターの連邦制なんです。各支部は独自の非営利団体として登録され、かなり自律的に運営されているのですが、それを変えるつもりはありません。それが、我々の特別なところなんです。それは、我々がサービスを提供する地域社会の需要に確実に対応するため...我々は世界中のコミュニティの一部であることを、本当に本物の方法で証明します。

しかし、我々はこれまで、集団的な野心や目的のために一致団結し、システムの力を活用することを意図的に行ってきませんでした。

ですので、それが狙いなのです。もしそうなったらどう思いますか？そして、50周年に向かう今こそ、それを試してみる絶好の機会です。

我々がやろうとしていることは、野心的ですが、可能です。

マクドナルドはこれをよくやっていますね。アーチの加速化というフレームワークがあるそうです。そして、「おいしいと感じる瞬間を誰にでも簡単に提供する」というミッション「食事を提供し、コミュニティを育む」という目的、一連の価値観...さらに、お客様が欲しいときに欲しい場所で料理を提供することが重要であるというように、いくつかの優先事項についても概説しています。配信はそのための手段です。配達の方法はいろいろあるのですが...第3業者を使用することができます...配達ドライバーや車両を自分で保有することも可能...自分のマーケットに合ったものかどうか...配達することがなんでしょうか...またはコーヒーとは...鶏肉とは...とかチキンとか...

RMHC に対して配達すること...コーヒー...鶏肉について調査する必要があります。

それが、この賞の大きさであり、その意義なのです。

--

今年の「衝撃戦略」への取り組み方について、これまでと異なる点がありますか？

意外に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、現在に我々は衝撃戦略を持っていますし、グローバルビジョン、グローバルミッション、グローバルバリューも持っています。

しかし、その全てに至った経緯を考えると...内容も規程も、もっとこうすればよかったという反省点がいくつかありました。

内容に関連することですが、50周年の勢いを生かしたいというのはすでに述べたとおりです。これは、可能性の芸術を探究し、我々がどのように進化すべきかを理解することであり、我々はまだ自分自身に忠実であることを意味します。

範囲として、現在の衝撃戦略は...正直なところ...ほとんど RMHC グローバルに向けています。一部のチャプターでは、それを意識してきました...その中には、それを採用して独自のプランを構築しているところもあるようです。しかし、能力開発のように、誰にでも当てはまるわけではない側面もあります。

それから、遠近感です。テクノロジー、ドナー環境の変化、地政学的状況の変化、ベンチャーキャピタルの資金流入など、さまざまな分野のトレンドがどのように変化しているのかを認識し、広く外・中の視点を持つことを心がけたい...その結果、医療提供のあり方がどのように変わっていくのですかと思います。それと、企業リスクから学んだこともあります。我々は、このすべてをただ取り込みたいのですが...また、スタッフやボランティア、地域の委員会、病院のパートナー、寄付者...マクドナルド...家族など...と豊かな議論を交わすこともあります...ですので、そのすべてを取り込んで、自分たちがどこに行けるのか、行くべきなのかを着地させたいのです。

それが規程につながるんです。前回の衝撃戦略では、システムの関与は一部の支部組織のリーダーを通じたものが多かったと思いますが...支部からの意見もありましたが、アンケートで集めたものが多かったため...そのため、人々は開発への関与や相談が必ずしもなされていないと感じるようになりました。そのため、我々は関与に多くの時間と労力を費やしています...誰もが自分の意見を聞

いてくれていると感じられるように確保します。そうすることで、我々が達成したい集団的な衝撃に関わる調整を得ることができるのです。

最後に、代理店のサポートという点では、このようなフレームワークの開発に関与したノウハウを持っている代理店を選びたかったのですが...営利と非営利の両分野で仕事をした経験のある人がいます...それと、我々の RMHC システムで働いた経験のある方であり...今回は、オーストラリアにある素晴らしい団体と出会いました...彼らの名前はベンデルタ様です...過去にオーストラリアの支部と仕事をしたことがあるそうです。

そうやって、今までとは違うアプローチをしているのです。

--

我々が探求している「大きな問い」とは何ですか？

そのため、約 9 ヶ月前にシステムに参加し、その間のかなりの時間を世界中のチャプターとつながる旅に費やしてきました。私は特に組織のリーダーと多くの時間を過ごしましたが、いつも幅広いテーマで挑発的な議論をします...家庭をより良くサポートするために、どのような点でコアプログラムを進化させる必要です...そして、病気や怪我をする前に、している最中、した後に、ケアの連続性に沿って家族をサポートすることは、どのようなことでしょうか。または、どうすればもっとうまく伝えられるか...または、私たちのスケールと購買力を活用して、どのようにコストを削減し、より効率的に運営するか...または、アドボカシーに関連する私たちの役割は何だろうか。

この議論は、私たちがこの規程を通じて問いかけることの基礎となったのです...開発中のフレームワークの主要な構成要素を把握するのに役立つ質問...ビジョンについて...お客様について（「お客様」という言葉は商業用語であることは承知していますが、正しい考え方でサービスを提供する相手について考えるのに役立ちます）...また、成長に関する質問も...プログラムに関するご質問...アドボカシーについて...そしてお客様へ体験と運用のベストプラクティスについてもあります。

というわけで、このような疑問を解決していくのです。

--

どのような規程になるのでしょうか？

ですから、先ほど申し上げたように我々はシステムにしっかりと関わるができるように、多くの時間と労力を費やしています。

今年の最初の数ヶ月は、世界各地で開催される組織リーダーサミットを通じて、システムリーダーの声を聞くことにしています...および、地域別に開催しています。

中旬には、組織のリーダーを通じて、先ほど申し上げたステークホルダーとの対話...そのため、スタッフ、ボランティア、地域の理事会、病院のパートナー、寄付者、マクドナルド、そして我々の家族です。

そして、秋には、さまざまな役割の人が集まる地域会議を開催し、人々が共有し、より多くの意見を提供するための対話型セッションを行います。

そして、今年の年末にフレームワークをリリースする予定です...これは、2024 年前半に、各システムが独自の戦略計画を策定し、それをラダーアップするための道筋をつけるもの...国際会議へつながること...2024 年の夏に開催されます...50 年の歴史を祝うだけでなく、我々が共に創り上げてきた未来の集合体の始まりの場として、我々全員が集まります...また、2024 年に開催されるマクドナルドのワールドワイドコンベンションでも、マクドナルドのシステムを盛り上げていきます。

また、運営委員会のような役割を担っている、優れた組織のリーダーたちがいることも、本当に重要なことだと思います。

衝撃戦略のグローバル・アドバイザー・チーム（GAT）」と呼ばれています。9カ国から集まった12人の組織リーダーと1人のボードチェアで構成されています。現在、平均して約9年のシステム経験を積んでいます...システム収入で約8700万ドル...および約80のプログラム...ということで...ハウス、ファミリールーム、ケアモビール、ローカルプログラム...全編に渡っています。

そして、その役割は3つあります。

まず、この規程にシステムを関与させる最善の方法を考え、実行するために、チャプターレンズを提供してくれているのです。

二つ目は、組織のリーダーやシステム全体との対話やワークショップを円滑に進めるために、前に指導してくれていることです。

そして最後に、システムの採用を促進するためのチャンピオンとしての役割を担っています。

これだけは言わせてください。グローバルなメッセンジャーではありません。このグループには、繰り返しますが、チャプターレンズを提供しているのです。強い視点を持っています。背中を押ししてくれます。疑問を投げかけます。しかし、彼らはまた、地域の帽子をかぶっています...またはシステムの帽子をかぶりますが...というように、システムの中にあるさまざまな視点や、全体にとって何が一番効果的なのかを考えることができるようになりました。

ですから、我々がこの重要な仕事についてシステム全体と関わる中で、我々のそばで考え、働いてくれることは本当に幸運なことだと思います。

というわけで、そういうことにしておきます。

--

行動を起こすための呼びかけ

以前にもお話ししましたが、フィラデルフィアの最初のハウスの会議室には、こんな素敵なプレートがあります。このプレートができた当時は、世界中に200軒ほどあったのですが、そこにこんな碑文...ある種の呼びかけのようなもの...「夢を膨らませ続ける」と書いてす。

それが、我々のやっていることです。

我々は、この偉大な組織の人生において、本当に重要な岐路に立たされているのです。

そして、私が望むのは、みんながこのチャンスに身を任せ、我々が向かう先に自分のスタンプを押す機会を受け入れることです...こんなチャンスは滅多にありません。

我々は、自分の進みたい道を明確に認識した上で50周年を踏み出し、自分が何者になっていくのかを世界に発信していく...どのように実現するのですか。

それが特別なことです。それが遺産なのです。そしてそれは、50年後に我々の後ろに来る、組織を前進させる人たちに残す特権を持つ贈り物です。

ですから、歴史を作りましょう。